

「ひかりエコメイト」の活動を見学しました。

2024年10月13日（日）、山口県光市で開催された「島田川の河口の自然を楽しもう！」を見学してきました。



主催者の「ひかりエコメイト」は、「島田川の豊かな流域づくり連絡会議^{*1}」と共に、自然環境の保護・再生等に関わる事業を通じ、地域社会に貢献する活動をしてられます。

^{*1}構成団体：山口県内の行政、関連団体など

今回は、地域の子どもたちとご家族が、島田川の自然の偉大さを身近に感じ、その大切さを学習することを目的に、以下の活動が実施されました。

「島田川の河口の自然を楽しもう！」

We Love 島田川

- 島田川河口の
- ・清掃活動と環境学習
(漂着物の学習)
- ・生き物観察会



この日の参加者は43名。待合場所に集まった子どもたちは、魚とり網やバケツを手に持ち、「早く川に下りたい」と待ちきれない様子でした。

まずは河口付近で清掃活動です。



堤防からだときれいに見える川には、びっくりするほど沢山のごみが流れついていました。子どもたちは「こんなのがあった！」などと言いながら、どんどんごみを拾っていきます。



ブラごみを放置すると…
マイクロプラスチックに
なってしまう！



清掃活動の最後に、ひかりエコメイトの藪さんより、マイクロプラスチックについての説明と、マイクロチップを増やさないために、自分たちができること、についてのお話がありました。

【マイクロプラスチックとは】

- ・ペットボトルなどのプラごみ、発砲スチロールごみは、海の表面を漂い、岩にぶつかったり、紫外線にさらされたりする中で、マイクロプラスチックと呼ばれる微小なプラスチックになる。
- ・餌と間違えてマイクロプラスチックを食べてしまった魚を、さらに人間が食べると、人間もマイクロプラスチックに吸着している有害物質の影響を受けてしまう可能性がある。

【自分たちができること】

「ごみは家庭で始末する」「ごみのポイ捨てをしない」「ごみが落ちていたら拾う」

マイクロプラスチックが入った箱を見つめる子どもたちを見ながら、「子どもたちは柔らかい頭と感性で、ごみの分別や後始末についてしっかり学んでくれたのではないかな」と思いました。

次はお楽しみの生き物観察会です。

子どもたちは、濡れるのも、泥まみれになるのもお構いなし。

夢中になって、生き物を探していました。



【見つけた生き物たち】



クサフグ



ウナギ



カニ



ヤドカリ、アナジャコなど



採取した汽水域に生息する「ハナグモリ」という2枚貝を水辺の砂地に置き、数分そっとしておくと、殻の間から足のようなものをそろりと延ばし、縦になってから、スッと砂の中に潜ってしまいました。

せっかく見つけた生き物たちですが、観察した後は、元いた場所にリリースし、活動終了となりました。



最後に、ご参加の皆さま、主催者、マツダ財団職員（竹岡）の感想をご紹介します。

子どもたちの声：

「たくさん生き物がいて楽しかった！」「ウナギや大きなカニがいてびっくりしました」

お母さんたちの声：

「昨年、友達に誘われて参加し楽しかったので、今年は自分でイベント検索して申し込みました。自然が好きだし、子どもと一緒に楽しめるので、とてもいいと思います。」

「子どもが『行きたい』と言うので、申し込みました。すごく楽しみにしていたので、今日は、たくさん生き物を見ることができて嬉しそうです。」

主催者の「ひかりエコメイト」さまの声：

絶好の観察日和になり、お蔭様で参加されました子どもたちやご家族に河口の豊かな自然を楽しんでいただけたと思っています。終了後、子どもたちからは「もっと続けたい」「来年も参加したい」との声が聞かれ、嬉しく思っています。これを機会にこれからも続けて河口に遊びに来てくれることを願っています。

マツダ財団 竹岡：

子どもたちが、夢中で、干潟を渡り、砂地を駆け巡り、体全体を使って生き物や自然環境を学んでいる姿を見て、こちらまで元気な気持ちになりました。子どもたちは、こういった活動を通じ、自然に、生き物を尊ぶ心や、心身ともに豊かな生活を営んでいく上で守るべきルールのようなものを体得してくれているのではないかな、とも思いました。活動を楽しみにしておられる参加者が多いこと、スタッフの皆さんが、安全監視はもちろん、生き物の名前を教えるなど、参加者の活動をうまく補助しておられたのも印象的でした。素晴らしい活動を見学させていただき、ありがとうございました！

（竹岡）